

平成29年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
1	地域連携自主防災事業	栗ヶ沢中学校 地域防災委員会	危機管理課	<p>【会長】 ・団体と危機管理課のチームワークがよく成され、質の高い協働事業となったと評価します。 ・団体の実行力を高く評価するところですが、危機管理課が現役仕事の市民が息切れせずに活動が続けられように、そっと支えてきたことも質の高い協働事業になった要因だと思います。</p> <p>【委員】 地域と行政との連携など、モデル事業となり得る活動を行われてきた。ことに避難所運営は「共助」の最たるものであり、今後もこのような訓練を継続して頂くことは本市にとっても有意義である。住民意識向上のためにも、自己資金のみとなっても当該事業を続けていく意義は大きい。本市以外、たとえば国等の助成金などにも応募して、全国の範になってもらうことを願うものである。</p> <p>【委員】 栗防の活動は、いつもすばらしい内容で、評価できる。 ①小冊子「栗中地域における大地震災害への備え」がとても良くできている。 ②交流会の実行がすばらしい。(連携力がすばらしい) ③今後の事業の発展を希望します。(自己資金15万円)(助成金がなくなった後)</p> <p>【委員】 栗ヶ沢中学校主体の地域防災委員会が、近隣の連合町会との連携を密にし、組織・住民の輪を広げられたことが素晴らしいです。この動きが松戸市全体へと広がることを期待します。</p> <p>【委員】 継続して栗ヶ沢地域の防災に取り組まれ、様々な組織と連携する際に課題にも触れてきたのではないかと思います。今後、危機管理課がこのモデル事業を活用する時には、栗防でうまくいったことばかりではなく、失敗したこと、課題も合わせて運営面で参考にさせていただきたいと思います。栗防通信冊子はよい出来栄で、他市でも参考にさせていただきます。</p> <p>【委員】 この会は、松戸市の中で最も先端をいっている自主防災組織といっても過言では無いと思います。そして今回は、今までの実績を元に地域の要配慮者の防災支援も視野に入れた活動を展開しています。更に他の防災組織とも積極的に交流を図る等、その活動パワーは留まるどころを知りません。しかし難しいのは報告書にも書いてあるように現在のモチベーションを維持していくことでしょう。「災いは忘れた頃にやってくる」という諺がありますが、是非とも「その日」に向けて、高い意識を継続していただくことを願っています。</p> <p>【委員】 ・長い間よく活動してこられました、今後は指導的立場として防災活動の継続を計ってください。 ・防災活動には終点はありません。蓄積し引き継ぎ語り継がなければならない事業です。後進のためにも地道に息長く継続してください。 ・防災は次世代にも引き継がれていかなければなりません、スムーズな継承を期待します。</p> <p>【委員】 災害弱者になればなるほど危機管理に無関心。現役世代の力が欲しいですね。市民活動として不可欠な分野です。協働を離れてもぜひ継続してってください。</p> <p>【委員】 災害からの時間経過により、危機管理意識が低下していくが、意識を継続し日常から備える取り組みが肝要。</p>

平成29年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
2	協働のまちづくり啓発事業	特定非営利活動法人まつどNPO協議会	市民自治課	<p>【会長】 ・年度当初の時点で表彰企画を取り止めて、その分の予算を他の企画へ振り向けるなどの早目の判断がなかったことを残念に思います。 ・講演会というやり方で、協働のまちづくりについて市民と職員へ何処まで啓発できるかの実験だと理解します。この3年間はいろいろな制約条件の下、試行錯誤しながら事業を進めてきたことを評価します。</p> <p>【委員】 本市の中間支援団体としての本団体の役割は大きい。市内全体のNPO等とのネットワーク構築のため、当該事業を活用した意識はまだ重要である。啓発事業はこれからも必要となるだろう。当該事業の趣旨を継続して実施していくために、これからも行政との協働は求められる。行政もそのあたりを重視してほしい。加えて、他のアクター、たとえば企業、学校などとの連携も積極的にお願いしたい。</p> <p>【委員】 すばらしい事業であると思いますが、課題が3つある。 ①広報活動が、少し足りないと思います。講演会参加者少なかった。 ②Webの閲覧者数はどうであるか？作るだけになっていないか。 ③表彰事業が行われなかったことが、残念です。</p> <p>【委員】 素晴らしい取り組みだと思いますが、貴団体の取り組みには市内全体を巻き込むほどの大きさを考えていましたので、今後を期待いたします。</p> <p>【委員】 講座をとおした協働のまちづくりの啓発は、協働の持ついろいろな切り口があり、苦労したのではないかと思います。市民側への啓発は、ターゲットとする年代や地域課題によっても違いがありますが、今回は若い世代の活動のきっかけづくりに主眼を置き、一定の成果があったと思います。今後、協働で解決する課題の共有により力を注いでいただきたいと思います。</p> <p>【委員】 今まで懸案であった講演会の土曜日開催を、今回は実施した様ですが、多くの市民の参加を期待した割には少なかったようです。講演のテーマが市民の関心を惹く結果になっていなかったのでしょうか。但し、これからますます増えていく高齢者からは「何かやりたいけど、何をやっていいかわからない」という声をよく聞きます。まさにボランティア予備軍と考えられます。自身が色々な活動に参加をして、社会に貢献できるという体験が出来ればそれがその人の生きがいになる可能性があります。この会の活動はより豊かな社会が実現する為の根幹をなすものと思いますので、今後も継続をしていただければと思います。</p> <p>【委員】 行政との協働だけでなく、企業との連携をめざし、そして参加人員が増えると良いですね。</p> <p>【委員】 活動の意義や目的に自然に人が集まり協力しあって成り立っていくのはなかなか難しいのか。何か自分でも活動をしたいという意欲・エネルギーと各種の活動と結びつけていくことも重要であり、きっかけの必要性もある。</p>

平成29年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
3	子どもたちが つくる青少年 会館居場所 事業	だいすき松 戸！子ども フェスティバル 実行委員会	生涯学習推進 課 青少年会館	<p>【会長】 ・この事業は、NPO×NPO×NPO×青少年会館の複数のプレイヤーに拠る協働事業だと認識しています。協働事業の新しい形が芽生えていると思います。そのことが子ども遊びの成果を高めたと評価します。 ・予算執行については、返還金が多く発生し、もったいない話です。予実管理の適正化を求めます。</p> <p>【委員】 子どもの「輪」づくりの手法としての当該事業は大きく評価できる。青少年会館(行政)との協働は今回についていえば、「Win-Win」であったように思われる。すばらしい活動ゆえにこれからの担い手、すなわち後継者育成をどのようにしていくかが、他の団体同様、重要になるだろう。その意味でも、市内ないしは市外のNPO等団体との連携を深め、ネットワークによる解決などを図っていただきたい。</p> <p>【委員】 子どもや青少年、高齢者との、交流できる異世代間交流、体験プログラムが、大変良かった。</p> <p>課題 ①担い手の育成が上手くいかなかった。その原因と方策に課題。 ②子どもの参加者は、同じ子供達かどうか大切。(夏休み平均22人)</p> <p>【委員】 市内は広いので、会館の存在をも知らない青少年も多く、今後の情報発信と、さらなる参加者増を期待します。子ども同士、また世代を超えた交流は、素晴らしいと思います。</p> <p>【委員】 松戸市にひとつしかない青少年会館なので、施設を上手に活用したプログラムとして成果があったのではないかと思います。このプログラムで得られた人のつながりを日常的な運営のあり方に反映するために、もうひと工夫できればいいと思います。子どもの居場所として、大事な施設です。</p> <p>【委員】 活動報告を読みますと、青少年会館が子供達の居場所として根付いたのでは無いかとの印象を受けました。念入りな打ち合わせの結果だと思いますが、各催し物の参加者も概ね予定を上回り、子供達が楽しそうに生き生きと過ごしている様子が窺えます。そして、その中で大人達との交流も生まれてきているとの報告もありました。この会の素晴らしいところは、単に子供の居場所を提供するだけでは無く、活動に関わる担い手も積極的に育成をしようとする姿勢です。ここで遊んでいた子供達が将来活動の中心となり、更にパワーアップをした居場所を造っていくという循環が生まれれば、それは素晴らしい社会といえませんか。</p> <p>【委員】 ・いろいろな企画を通じて、子供の体験・子供の交流が広がっているのがよくわかります。 ・子供は何れ大きくなって離れて行くことになるでしょうが、ここで育った子供が次の場所で新たな行動を起こしていけるようになることが望めますね。 ・そして大人になって、ここで得られたものを発展的に継承してくれる人が出るのを期待します。</p> <p>【委員】 幅広い世代との交流と、未来の担い手を育てることを目指し、がんばって下さい。</p> <p>【委員】 活動の自主性、担い手の育成が進んでいるのか。行政主導の感が強い。どうしても子供たちの行動範囲を考えると小さな地域での活動となりがちだが、全市への活動の糸口にはなりえないか。</p>

平成29年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
4	地域ねこ活動推進事業	まつど地域ねこ会	環境保全課	<p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ協働を選ぶのか、達成したいことは何かを団体内でよく話し合い、共通認識をつくれなかったと思います。実に残念です。 ・協働は相手の事情をよく理解し、チームワークをつくること。その原点に立ち戻り、活動を一から始めてください。 <p>【委員】</p> <p>地域の環境、ことに持続可能な地域づくりについては重要な活動である。2点提案であるが、1つ目は団体と行政、そして地域との連携をさらに密接にしていくことが肝心であろう。2つ目は、当該事業の目標設定値を再度検討されるのがよいのではないだろうか。環境保全課だけでなく、地域担当は市民自治課である。これからは両所管課との連携を深め“going concern”をめざしてほしい、この提言は本団体を引き継ぐ団体にぜひお願いしたい。</p> <p>【委員】</p> <p>大変すばらしい事業であると思いますが、課題として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①良い事業なのですが、ふりかえりの自己評価が低すぎる。 ②啓蒙事業は、少し広がってきているが、担い手の広がり、苦労がある。(ボランティアの、被害者意識との対応が大変である。)意見の相違が大変であることがわかった。 <p>【委員】</p> <p>主旨は素晴らしいです。今後、「モデル地域」を募り、成功事例を以って、今後の活動へつなげていくことが望ましいと思います。町会・自治会からの理解が、まず大事で、行政のサポートを得られる努力をなさってください。</p> <p>【委員】</p> <p>松戸市内でも、野良猫の多い地域など地域を限定してモデル事業として、啓蒙事業を実施することがよいのではないかと。また、その事例を参考に、市内全域への地域ねこ活動の普及を検討してはどうかと思います。</p> <p>自治会町内会を担当する部署、環境保全課が連携・協力して、方向性を決めて取り組む必要があります。</p> <p>【委員】</p> <p>残念なことに自己評価がかなり低い結果となっています。会のメンバー同士の共通認識の不足や、環境保全課との意見調整が出来ていなかった等、事業を進めるための体制が十分でなかったようです。その為、メイン事業である講演会も100人の目標が54人という結果となり、主催者はかなり落ち込んでいるように見えました。しかし、このような事業は地道な努力を継続していくことにより、徐々に成果が出るものと思います。今回の経験は次のステップへの踏み石と考えていただき、更なる活動を期待したいと思います。</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり活動が進展しなかったようで残念です。 ・いわゆる価値観の相違というものがあつたのでしょうか。あなた方の考え方を周囲の方にも理解していただけるよう、説明が求められるでしょう。今後も皆様の活動に期待します。 <p>【委員】</p> <p>これからは室内飼いが増えるのではないのでしょうか。それにしても売れ残りを捨てていく業者等困ったものです。一代かぎりの命を、ぜひ救ってください。</p> <p>【委員】</p> <p>猫の飼い方、人間とのかかわりについて、時代や環境の変化、また、感覚の多様性もあり、整理・統一の難しさを痛感する。行政がかかわるとどうしても統一感を持たざるをえないが、それぞれの視点での取り組みがあつてもと思わされた。</p>